

保健たより

R7. 12. 18. No.8

飯豊中学校 保健室

3年生 性といのちの学習「自分の体と未来のために」

看護協会の助産師である相田圭子さんにお越しいただき、講話をしていただきました。いのちの始まりや妊娠・出産のことについて、母子手帳や子育てに関する実験などを示しながら教えていただきました。また、中高生の妊娠や日常に潜む危険なども事例を挙げながら説明していただきました。さらに、対等な関係を築くことの大切さや望ましい交際関係、自分の体を守ることの大切さと守り方などを学びました。



産まれたときの大きさ、重さの赤ちゃん人形を抱っこしてみました。

「かわいい～！」 「意外とおもい！」
「首がガクガクする！おさえてあげないと！」



【生徒の感想より】

人の気持ちを考えることの大切さを知りました。
「性」というだけで恥ずかしがらずに相手などと話し合うこと、相手が嫌なら自分がいいと思ってもやらないことが大切だと思いました。

知識のない人から生まれてしまう被害が多いんだなど気づかされました。だからこそ正しい知識を得るべきなんだなと思いました。

まわりの人が愛情を持って育ててくれた大切な命と体をこれからは自分自身で守っていけるようにしたいと思いました。

いろいろな性があることが改めて分かったので、これから自分とは考え方や生き方が違う人も認めて生きていきたいです。

性教育と聞くと避妊とかそういうことだと思っていましたけど、いろいろなことがあると学べた。軽い気持ちでいたり性についてあまり理解していないと相手を傷つけることになると思うので、知識をつけていきたいと思った。

生まれたくても生まれない子や途中で危険にさらされることなどがあり、命というものはほかないと感じた。

自分のことは自分で守るのが大切だなと思いました。いざとなったときにはしっかり断れるようになりたいと思いました。自分で守るのも大切だけれど、周りの大人や頼れる人に相談していきたいなと思いました。

赤ちゃんを抱っこしたとき意外と重くてびっくりしたし、あの赤ちゃんがお母さんのお腹の中に入っていると思うと、大変だったんだろうなと思いました。親に感謝したいです。

性被害は女性だけでなく男性も被害にあうことがあると分かりました。中学生で付き合ううえでお互いのことを考えることが大切だということが分かりました。

2年生 性といのちの学習「多様な生き方を学ぶ～ジェンダーの視点より～」

人権擁護委員で、長井市の洞松寺の住職である小野卓也さんにお越しいただき、多様な性について講話ををしていただきました。



【生徒の感想より】

みんなが思う“普通”にとらわれていて本当の自分を出すことができず、隠している人がいることをたくさん的人が理解し、受け入れていきたいです。‘人を見る解像度を上げる’という言葉がすごく良いと思いました。

僕は人と関わっていくうえで性別は関係ないと思っています。友達だったり同僚だったりしても、そういうことって気にしないと思います。その人がLGBTQであったとしても、その人の性格であったり考え方であったり、その人のいろいろを考え、楽しく生きていこうと思っています。

心と体の性が違う人がいても、それも1つの個性として認め、尊重することが大切だと思いました。男女の固定概念や偏見をなくすため、その人その人の解像度を上げ、マイノリティを自分の問題として考えるなど自分できることを探していきたいです。

友達の解像度を上げて見ることで、さらにその友達のいいところや個性が見つかると思うので、生活する中でよく見て行動していきたいと思いました。

私は、人と違うところほどその人が生まれもった大切な個性だと思うし、そのような個性をもった自分も大切にできる世界になるといいなと感じました。個性を出す人が近年増えていると思いますが、それが当たり前の社会にもっとなると、自分と相手の異なるところをプラスに捉え、生きやすい世界になると思いました。

ジェンダーのことを理解していないと、相手を傷つけてしまったり、いじめにつながったりと様々な問題が起こってしまいます。そんな世の中を変えるために、まずは自分からジェンダー平等を意識して生きていこうと思います。

自分が気づいていないだけで周りにも「LGBTQ」などの性別について悩んでいる人がいるかもしれないということが分かりました。その悩みを「普通じゃない」と捉えるのではなく、その人の「個性」として捉えることが大切だということが分かったので、自分とともに相手のことも尊重して生活していきたいと思いました。

身近にある 人権侵害

「人権」ってどんな権利が分かりますか？それは「すべての人がかけがえのない人間として自由に考え、自由に行動して、幸福に暮らせる権利」です。

他の人の人権は簡単に傷つけることができてしまうものです。例えば、友達の悪口。自分は冗談で言ったつもりでも、言われた相手は傷ついているかもしれません。

また、いつも冗談で言う言葉でもSNSだと、表情や雰囲気が見えないので悪口と感じることもあります。

これらは友達の人権侵害です。発言、発信する前に「もし自分が言わいたらどう思うか」相手の気持ちになって考えてみましょう。それだけでも、すべての人が幸せに暮らす一歩になるはずです。